

鉄炮鍛冶屋敷

てつぽう かの じやしき

堺市立町家歴史館 井上関右衛門家住宅

いのうえ せきえもん けいゆうたく

令和6年3月3日

13時開館

所在地：堺市堺区北旅籠町西1丁3-22



山口家住宅・清学院 同日リニューアルオープン

井上関右衛門 壽次銘 火縄銃 (個人蔵)

堺の環濠エリアを巡ろう！

堺市立町家歴史館を構成する3つの施設

3館共通 開館時間 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日 火曜日(ただし祝日の場合は翌日)、
年末年始(12月29日～1月3日)



鉄炮鍛冶屋敷(町家歴史館 井上関右衛門家住宅)

全国で唯一残る江戸時代の鉄炮鍛冶の住居兼作業場。鉄炮鍛冶・井上関右衛門家に伝わる2万点を超える資料を順次展示、体験コンテンツ等を通じて「本物のものづくり空間」を体験できます。

入館料 500円
アクセス 南海本線「七道」駅より 東へ300メートル



町家歴史館 山口家住宅

慶長20年(1615)の大坂の陣の戦火により市街地が全焼した直後に建造された、国内でも数少ない江戸時代初期の町家のひとつとして、国の重要文化財に指定されています。

入館料 200円
アクセス 阪堺電気軌道阪堺線「綾ノ町」停留場より 南東へ200メートル



町家歴史館 清学院

元禄2年(1689)の『堺大絵図』に「山伏清学院」の名で見える修験道の道場。江戸後期から「清光堂」という寺子屋としても機能し、日本人で初めてチベットに入った河口慧海もここで学びました。

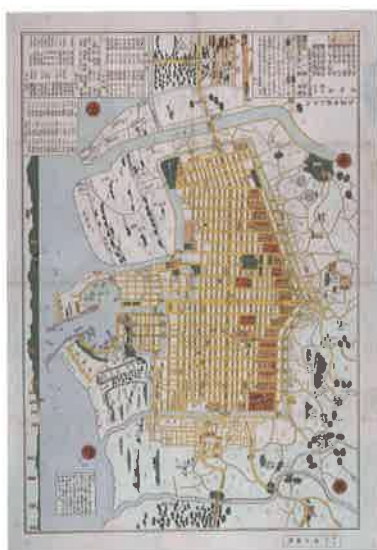
入館料 100円
アクセス 阪堺電気軌道阪堺線「高須神社」停留場より 西へ300メートル



堺の「環濠」とは？

古くから人や技術、文化が集まる先進地であった堺は、中世に会合衆の自治による貿易の拠点として繁栄しました。16世紀には海を除く都市の3方を濠で囲むようになり、その様子はポルトガル人宣教師により本国へ報告されました。

その後、慶長20年(1615)大坂の陣で全焼した堺は幕府によって復興が進められました。街区の整備は「元和の町割り」と呼ばれ、大小路と大道筋の方向を基軸として長方形の基盤目型の町割りがなされました。この時から整備が始まった近世の環濠は、現在も土居川や内川としてその一部が残されています。



▲文久改正堺大絵図 文久3年(1863) 堺市立中央図書館蔵